

## 「良いサマリア人」

ルカの福音書 10:25～37

### はじめに

今日の内容はイエシュアのたとえ話の中でも有名な「良いサマリア人」のたとえです。このたとえは普通、人に対するあわれみという意味での「隣人愛」について説く教えとして用いられます。そしてこの愛を実行すれば、永遠のいのちを得ると教えます。たしかにイエシュアはそのように語られたと聖書に書いてありますから、この愛は実行、実践されなければなりません。さもないとイエシュアの言われるいのちを得られず、滅びることになるからです。ではこの愛はどのように実行され、現わされるべきものなのでしょうか。今日は特にこの「愛、愛すること」に秘められた神のご計画を見、その上であらためてこの有名なイエシュアのたとえ話について読み解いてまいりましょう。

### 1. 心を尽くし

ルカの福音書【新改訳 2017】

10:25 さて、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試みようとして言った。「先生。何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか。」

10:26 イエスは彼に言われた。「律法には何と書いてありますか。あなたはどのよう読んでいますか。」

10:27 すると彼は答えた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』、また『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』とあります。」

10:28 イエスは言われた。「あなたの答えは正しい。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」

永遠のいのちを受け継ぐために必要なこと、それはまず「**あなたの神、主を愛**」することですが、「**心を尽くし、いのちを尽くし…**」という愛し方でなければなりません。ではこの表現が聖書で最初に用いられた箇所を見てみましょう。

申命記【新改訳 2017】

4:26 私は今日、次のことで、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。あなたがたは、ヨルダン川を渡って所有しようとしているその地から追われ、たちまち滅び失せる。そこで、あなたがたは長く生きるどころか、すっかり根絶やしにされる。

4:27 また、【主】はあなたがたを諸国の民の中に散らされ、あなたがたは【主】が追いやる国々の中で、ごくわずかな者として生き残ることになる。

4:29 しかしそこから、あなたがたがあなたの神、【主】を探し求め、**心を尽くし、いのちを尽くして**求めるとき、あなたは主にお会いする。

4:30 こうして終わりの日に、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたが苦しみのうちにあるとき、あなたは、あなたの神、【主】に立ち返り、御声に聞き従う。

4:31 あなたの神、【主】はあわれみ深い神であり、あなたを捨てず、あなたを滅ぼさず、あなたの父祖たちに誓った契約を忘れないからである。

これは主がモーセによってエジプトから導き出されたイスラエルに対して語られたものであり、彼らがどのようにして、どのような経験を経て神に立ち返り、ついに神の選びの民として完成されるのかということが記されたものです。それは「所有しようとしているその地から追われ…滅び失せ」「諸国の民の中に散らされ…ごくわずかな者として生き残ることになる」そこで「【主】を探し求め、心を尽くし、いのちを尽くして求めるとき…主にお会いする」という箇所がその最初の言及であり、そして「こうして終わりの日に」とあるように、これらの御言葉、預言は究極的には世の終わりについての神のご計画であり、「終わりの日に」彼らイスラエルの残りの者たちが「心を尽くし、いのちを尽くして求めるとき」メシアである主イエシュアが地上再臨され、彼らをご自分の民として救い出され、「神の国」の民とされるというご計画がここには記されているのです。つまり、「心を尽くし、いのちを尽くし…」というこの表現は本来、主イエシュアをメシアとして信じ、受け入れ、その御名を呼び求めるイスラエルの民、イスラエルの残りの者たちによる、神の御子、神であられる主イエシュアの再臨待望の姿を指し示す御言葉なのです。

## 2. 愛する

そして「心を尽くし、いのちを尽くし…あなたの神、主を愛しなさい」とあります。この「愛する」とは本来、以下のような意味、出来事を指し示す言葉です。

創世記【新改訳 2017】

22:1 これらの出来事後、神がアブラハムを試練にあわせられた。神が彼に「アブラハムよ」と呼びかけられると、彼は「はい、ここにおります」と答えた。

22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたが愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そして、わたしがあなたに告げる一つの山の上で、彼を全焼のささげ物として献げなさい。」

これは「愛する」という意味のヘブル語アーハヴ(אהב)が聖書で最初に用いられた箇所です。神は「愛しているひとり子…を連れて、モリヤの地に行きなさい」と言われました。ですから「愛する」アーハヴとは本来、モリヤの地の「一つの山の上」これはすなわちエルサレムの主の宮、神殿（Ⅱ歴代誌 3:1）を指し示す場所であり、そこに連れて行くことを意味する言葉なのです。これは愛という言葉の意味を考える上で非常に重要な概念ですのもう一度言います。「愛する」アーハヴとはエルサレムの主の宮を目指し、そこに連れて行くという意味の言葉なのです。私たちが一般的に捉えている愛の概念とは大きく異なることを覚えてください。ですから「心を尽くし、いのちを尽くし…あなたの神、主を愛しなさい」とは、神である主イエシュアがやがて終わりの日にイスラエルの残りの者たちのもとに再臨され、彼らを伴ってエルサレムに入られる、勝利の凱旋をされるという神のご計画が指し示された御言葉なのです。この聖書に記された愛すなわち神の愛の概念が、今や一般的なそれにすり替わり、その真理は全く欠落してしまっています。神は愛であると多くの人が言います。しかし肝心のその愛についての捉え

方、解釈が神の御心、神のご計画を指し示していないのです。その結果、私たちは神の愛が理解できず、愛であられる神が、その御心が理解できていません。ですから神に愛され、神を愛する皆さん、どうか人が作った虚しい作り話の中の愛や、事実を誇張した見せかけだけの愛に惑わされないでください。そしてこの愛の本来の意味、真の意味を知ってください。すなわち終わりの日に必ず起こる神のご計画、イエシュアの地上再臨とエルサレムの神殿およびイスラエルの回復、すなわち千年王国、メシア王国とも呼ばれる「神の国」の完成、成就、これが、これこそが神の愛、アーハヴ(אהב)なのです。なによりこの言葉は「神」を意味するアーレフ(א), 「見る、生きる」ことを意味するヘー(ה), そして「家、国」を意味するベート(ב)が組み合わさった文字です。このようにアーハヴには「神が見る、住まわれる家」すなわち「神の国」の姿がはっきりと表されているのです。この愛の概念は、聖書全体、神ご自身を知る上で非常に重要な概念ですから、ぜひ覚えてください。

### 3. 隣人

では続いて「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」という御言葉についても解き明かしましょう。「愛する」という言葉の意味は今述べたとおりです。では「隣人」とは何か、誰のことを指すのでしょうか。この「隣人」のことをヘブル語でレウート(לעוּת)といい、「交際する、交わる」という意味のラーアー(לראו)がその語源です。ではこのラーアーの最初の言及を見てください。

創世記【新改訳 2017】

4:2 彼女はまた、その弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり…。

「羊を飼う」これが「隣人」レウートの語源、ラーアーの最初の言及、その本来の意味です。つまり「あなたの隣人」とは本来、あなたの羊飼い、あなたの牧者という意味であり、すなわちイスラエルの牧者、イスラエルの王を指し示す言葉であり、神のご計画においてそれはメシアである主イエシュアにおいて他にはありません。ですから「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」とは**イスラエルの王なるメシアであられるイエシュアを愛しなさい、すなわちイエシュアとともにイスラエルの残りの者はエルサレムに入りなさい**という意味であり、つまり先ほど解き明かした「心を尽くし、いのちを尽くし…あなたの神、主を愛しなさい」という御言葉と同じ意味を持った、同じ神のご計画を表した言い換えによる強調表現、パラレリズムであるということなのです。

今日、隣人、友人を愛せず、赦すことがことができずに悩んでいる人、苦しんでいる人は誰ですか。人間関係の中でこの御言葉を適用しようとして一喜一憂している人は誰ですか。あなたは大変な思い違いをしています。神のご計画は、「神の国」はあなたの人間関係の中には成就、完成しません。そこに救いはありませんよ。

神の視線、その眼差しは常にイスラエルの回復、完成に向けられています。実は先ほど述べたエルサレムの神殿の場所を指し示すモリヤ(מִזְבֵּחַ)という名にも「主がご覧になる場所」という意味があるのです(聖書外典ヨベル書 18:13)。神である主が見つめておられるものを同じように見つめ、その先に

向かう、進むこと、それがアーハヴ「愛する」ことの本質です。父アブラハムは愛する息子イサクをそのように扱いました。つまり神を愛することとは神を見つめることではありません。神が見ておられるものを同じように見ることなのです。御父と御子の関係とはまさにそれで、この両者は全く同じ視点で全く同じものを全く同じ位置から見ておられるのです。ですから愛の関係、愛し合う関係とは、口づけする時のように向き合う関係ではありません（ちなみにキスは目を閉じてしまいますよね）。神と私たちの理想の関係を手袋にたとえることがあるそうですが、よく言われる「神と顔と顔を合わせる」とは仮面、マスクと素顔、もしくは頭と帽子、冠のように「顔と顔を同じ向きに重ね合わせる」ことであり、言うなれば一本のマイクで声を重ねて歌うデュオのような形を指すのです。神が歌っておられる歌とともに歌うように声を合わせ、神が見ておられるものを同じように見、神の御心、そのご計画の完成をまさに「自分自身のように」、自分自身の願いとして祈り求めること、それがアーハヴが指し示す「愛する」ということの本質なのです。そして神を愛することも、隣人を愛することも、どちらも同じ意味を持ち、同じ神のご計画を指し示しています。そのような意味において神が私たちが愛しておられることを、今日ぜひ覚えてください。それはすなわち、私たち異邦人をも、イスラエルにつながる者として「神の国」の民に加えてくださるという事実です。このように、神の愛はまさに言葉や口先だけではなく、行い、現実の形となって私たちに与えられるのです。

#### 4. 神の国の奥義

ルカの福音書【新改訳 2017】

10:29 しかし彼は、自分が正しいことを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とはだれですか。」  
 10:30 イエスは答えられた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下って行ったが、強盗に襲われた。強盗たちはその人の着ている物をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。  
 10:31 たまたま祭司が一人、その道を下って来たが、彼を見ると反対側を通り過ぎて行った。  
 10:32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。  
 10:33 ところが、旅をしていた一人のサマリア人は、その人のところに来ると、見てかわいそうに思った。  
 10:34 そして近寄って、傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで包帯をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した。  
 10:35 次の日、彼はデナリ二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』

上記のたとえは、実は先ほどの申命記の預言と結びついています。つまりこの「ある人が、エルサレムからエリコへ下って行ったが、強盗に襲われた」というのは「所有しようとしているその地から追われ、たちまち滅び失せる」また「諸国の民の中に散らされ、あなたがたは【主】が追いやる国々の中で、ごくわずかな者として生き残る」というイスラエルの民およびイスラエルの残りの者を表しているのです。そして通り過ぎて行った祭司とレビ人とは、ソロモンやゼルバベルによって建てられたかつてのエルサレム神殿のあった時代です。これらの時代はイスラエルを救うことなく、まさに過ぎ去りました。そこに現れる「一人のサマリア人」とはもちろんイエシュアご自身を指しています。イエシュアはイスラエルの民の傷を癒されました。それはどのようにしてか、以下にこう預言されています。

イザヤ書【新改訳 2017】

53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめ  
が私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

これはイエシュアの初臨における十字架の受難を指しています。イエシュアはイスラエルの背きの罪をその身に背負い、身代わりとなることでイスラエルの傷を覆われたのです。そしてサマリア人が宿屋の主人にその人を預けて去って行ったように、イエシュアもまた去って行かれ、天に昇って行かれました。

そしてサマリア人の与えた「オリーブ油とぶどう酒」これらは終わりの時代にあっても決して害を受けないイスラエルの残りの者に対する神からの守りを指し示しています。こう預言されています。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

6:6 私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の真ん中でこう言うのを聞いた。「小麦一コイニクスが一デナリ。大麦三コイニクスが一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」

また「自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱した」というこのたとえは以下の預言を指し示しています。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

12:6 女は荒野に逃れた。そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった。

12:13 竜は、自分が地へ投げ落とされたのを知ると、男の子を産んだ女を追いかけた。

12:14 しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒野にある自分の場所に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。

この預言は終わりの日に竜すなわちサタンとその子である獣、反キリストの脅威から守られるイスラエルの残りの者についての預言です。ここで「鷲の翼が二つ与えられた」というのがたとえの中でサマリア人が出した「デナリ二枚」と結びつきます。そして「もっと費用がかかったら、私が帰りに払います」というこの御言葉はイエシュアが帰って来られること、すなわちイエシュアの地上再臨を指し示しています。

またここで「払います」と訳されるヘブル語は、都エルサレムの名に由来し「平安」「完成」を意味するシャーロームの動詞形シャーレーム(שלם)です。このように、イエシュアは終わりの日のイスラエル、イスラエルの残りの者がいかにして守られるのかということが表されているのです。そしてこの「守られる、守る」という意味のヘブル語シャーマル(שמר)が、このたとえにあるサマリア人(שמרוני)という名の中には込められているのです。このように、シャーマル、守る方、サマリア人にたとえられた主

イエシュアによる守りと救いがどのようなものであるかということがこのたとえの中に「神の国の奥義」として秘められているのです。

## 5. 同じようにしなさい

ルカの福音書【新改訳 2017】

10:36 この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」

10:37 彼は言った。「その人にあわれみ深い行いをした人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って、同じようにしなさい。」

「イエスは言われた。あなたも行って、同じようにしなさい。」アーメン！まさにその通りです。ここに示された奥義がそのとおりに実行されなければ誰も永遠のいのちを得ることができないのです。救いはこの方法、このご計画に従ってしか達成、完成しません。神をそして隣人であるイエシュアを「愛する」とは神を見ることではなく、神が見ておられるものを同じように見、目指すことであると述べました。どうぞあなたも「同じように」してください。しかしこれは神のご計画であり神ご自身によってのみ成し遂げられる神の御業です。ですからかつてイサクがアブラハムに連れられて、ただひたすらにともに歩いて行ったように、私たちは神のご計画の完成である「神の国」を目指して歩くのみです。

主は今日、その終わりを、完成、ゴールを示してくださいました。それはまだかすかでぼんやりとしてしか見えないかもしれませんが。しかし時は確実に近づいていて、以前よりは確実に見えるようになってきているはずです。ですからどうか目を逸らさないで、他の物事に目を、心を奪われしないで、イエシュアの御名を呼び求めつつ、日々神が示しておられるゴールを目指しましょう。聖霊の助けがありますように。